医業経営の現場から

file079　中国・四国地区

開業10年目で理想を求めて新築移転

育てくれた地域へ恩返し

小野薫院長は、2000年に新設された市民病院（150床）に循環器部長として赴任したが、呼吸器疾患も多く、自ら担当した。また、療養型病院や開業医からの急変患者も積極的に引き受けた。その結果、幅広い臨床力が鍛えられたと言う。また、当時の院長の言葉「病院を癒やしの場に」に触発され、待ち時間対策、病棟図書コーナー、スタッフ教育、患者会立ち上げなど、様々な取り組みを行い、「こんな病院あったらイイな」を目指した。

赴任から7年、自分らしい医療サービスを体現したいと開業。デザインされ心地よい建物や家具、待合にはたくさんの本やアート、心配りの行き届いたサービス提供など、「あったらイイな」を体現した。その結果、患者は順調に増え、在宅医療も行うようになり、看取りの経験も増えていった。

折しも各地で「地域包括ケアシステム」の構築事業が始まった頃だった。住み慣れたまちで人生の最後まで過ごし、逝くには、まちや住人が変わらなければ難しい。「医療はまちづくり」と考え、育ててくれた地域への恩返しとの思いから、開業10年目の2018年、同じ町内にライブラリとカフェを併設した新クリニックを新築し、移転した。

憩いの場のライブラリとカフェを併設

新築に際しては、全国のひとが集まる場を見て回り、構想を膨らませた。今までは本棚レベルだったが、新クリニックでは「ライブラリ」と言える空間が欲しかった。蔵書は医療・介護関係から、生活、芸術、児童書まで5,000冊を超える。「診療に来て、色々な知識が得られ、新たな発見がある。“一粒で二度美味しい”病院。待ち時間の多様性につながればとの思いもありました。また、本や空間があることでひとが集まり、医療や介護の悩みを気軽に相談できる『暮らしの保健室』のような場にもしたかった」と話す。ライブラリは『おのクリ保健室』と称し、脳トレ（認知症予防）、語り場（サロン）、体操・ヨガ教室などを定期的に開催。音楽ライブ、落語やフリマなど、まちの文化度をアップする催しも行った（現在はコロナ禍で休止中）。

医療法人 おのクリニック　概要

■**所在地**　山口県周南市大神3丁目12-1
■**院長**　小野　薫
■**診療科目**　内科、循環器内科、呼吸器内科

ライブラリは“暮らしの保健室”でもあり、人が気楽に集い・語り・楽しむ場として地域に開放されている

併設するカフェ「元気スイッチ」。前面ガラス張りの開放感あふれる空間で、高級レストラン並みのランチを手軽に味わえる

2 階は広いリハビリ室。「リハビリは運動機能の回復だけが目的ではなく、馴染みのスタッフやリハビリ仲間との社会的な関係性を持つ場としての機能が重要」と小野院長

院長　小野　薫 氏／副院長　小野　祐紀子 氏

院長 小野 薫 氏：1994 年山口大学医学部卒業。1994 年、同大学第二内科入局。1995 ～ 1997 年、徳山中央病院循環器内科研修医。2000 ～ 2007 年、周南市立新南陽市民病院内科医長を経て、2007 年 7 月、おのクリニックを開院。
日本循環器学会認定循環器専門医。徳山医師会副会長、周南市在宅医療介護連携推進事業「あ・うんネット周南」コアメンバー（前座長）。

ひとが集まる場には本があり、オシャレなカフェがあった。夏場、高齢者は食欲が低下しやすく、点滴を希望することが多いが、点滴で元気になるより、美味しい食べ物で元気が出る方があるべき姿ではないかとカフェを併設した。その名も『元気スイッチ』。「フレンチで腕を磨いたシェフが作る日替わりランチが食べられます。カフェに寄ってくれる高齢者はオシャレをしてくるようになりました。診察に同伴されたお子さんとランチを食べて帰ったり、近くの高齢者施設の入所者仲間が毎日お茶しに来たり、カフェを作ってよかったと感じる瞬間です」と話す。

ウィズコロナ時代のクリニックの姿を模索

新築・移転は患者のニーズを受け止めたもので、クリニックの理念「あなたの、わたしの、まちのイイな！を実現します」そのものだった。開業から 10 年と早く、無謀と思われたが不安はなかった。開業 5 年を過ぎた頃から夢が膨らみ、1～2 年は新たに出会った医業経営コンサルタントにひたすら夢を語った。共に夢を形とし、事業計画を作成。開業時と同じ金融機関に融資を申し込んだが、よい返事をもらえず自信を失ったと言う。「もっと地域に貢献したいという夢に共感を得られず寂しかった」。しかし、夢に共感し、融資を引き受けてくれる金融機関に出会うことができた。「コンサルタントや金融機関が型にはめず、思いを汲み、最善を一緒に考えてくれた結果です」と感謝の言葉を述べた。

最後に小野院長は「コロナの出口はまだまだ見えず、感染症対応で大変ですが、慣れてもきました。昨年、幹部 4 人が 1 年間コーチングを受け、各部署の良好な関係性構築を再考しました。働きやすい環境を目指し、スタッフの「イイな！」の実現も大切と考えています。スタッフ全員で当院の理念をあらためて共有し、ウィズ&ポストコロナ時代のクリニックの姿を模索し、勇気を持って歩んでいきたい」と力強く語った。

元のクリニックは 400m（徒歩 5 分）ほどのところにある。「地域医療のリソースとして活用できれば」との願いを聞いた関係者が奔走。居抜きによる小児歯科の継承が決まり、取材時はオープン準備中だった

「医療を通じて皆の"あったらイイな"を実現していきたい」